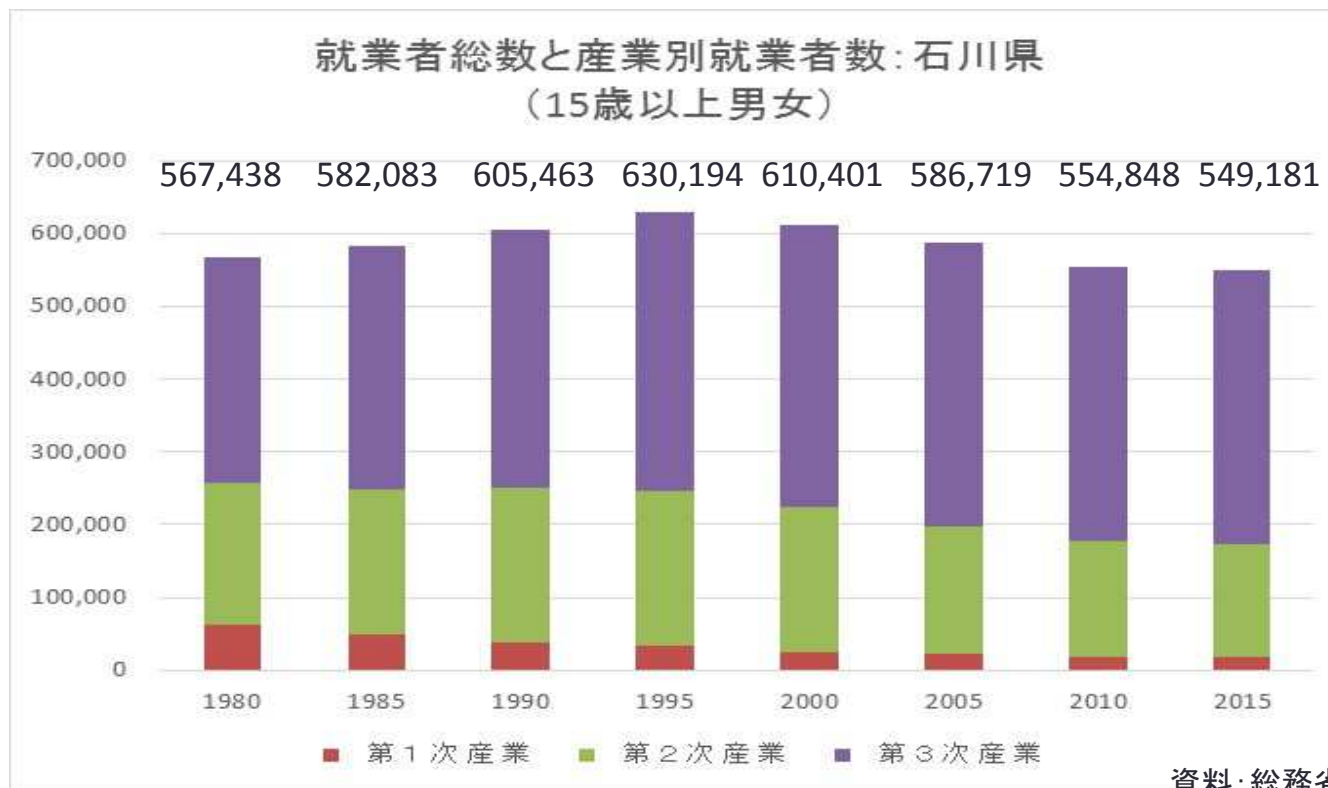


5.労働市場・雇用分野

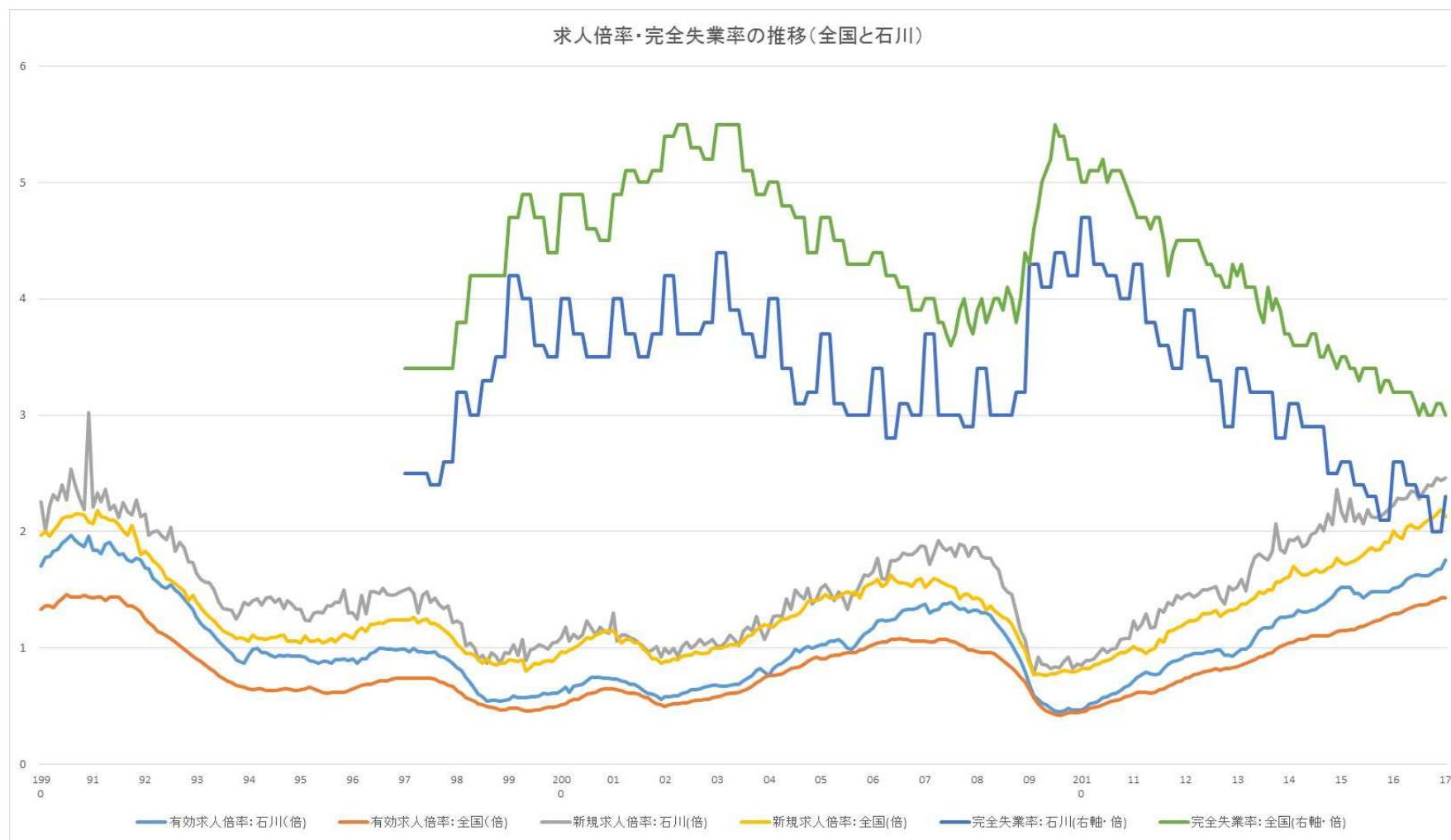
労働需給のミスマッチの状況とその要因

就業構造(石川県)と構成比(全国・石川県)



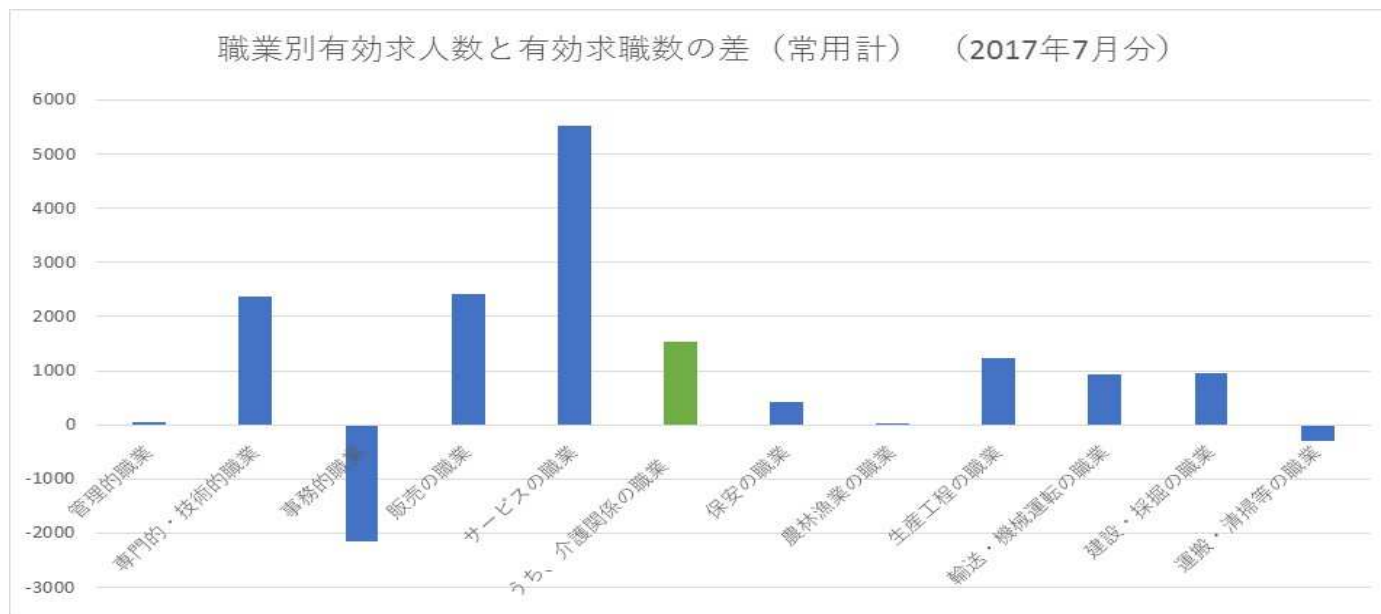
	全国			石川			差		
	第1次産業	第2次産業	第3次産業	第1次産業	第2次産業	第3次産業	第1次産業	第2次産業	第3次産業
1990	7.2	33.5	59.4	6.5	35.0	58.5	-0.7	1.5	-0.8
1995	6.0	31.3	62.7	5.4	33.6	61.0	-0.6	2.3	-1.7
2000	5.2	29.5	65.3	3.9	32.8	63.3	-1.2	3.3	-2.0
2005	4.9	26.4	68.6	4.0	29.7	66.4	-1.0	3.2	-2.3
2010	4.2	25.2	70.6	3.3	28.7	68.0	-0.9	3.5	-2.6
2015	4.0	25.0	71.0	3.1	28.5	68.3	-0.8	3.6	-2.7

労働需給(失業率・求人倍率)推移(1990-2017)



資料: 厚生労働省「一般職業紹介状況」、石川労働局「有効求人倍率の長期推移」月別推移

職種別ミスマッチと正規・非正規率(石川県)

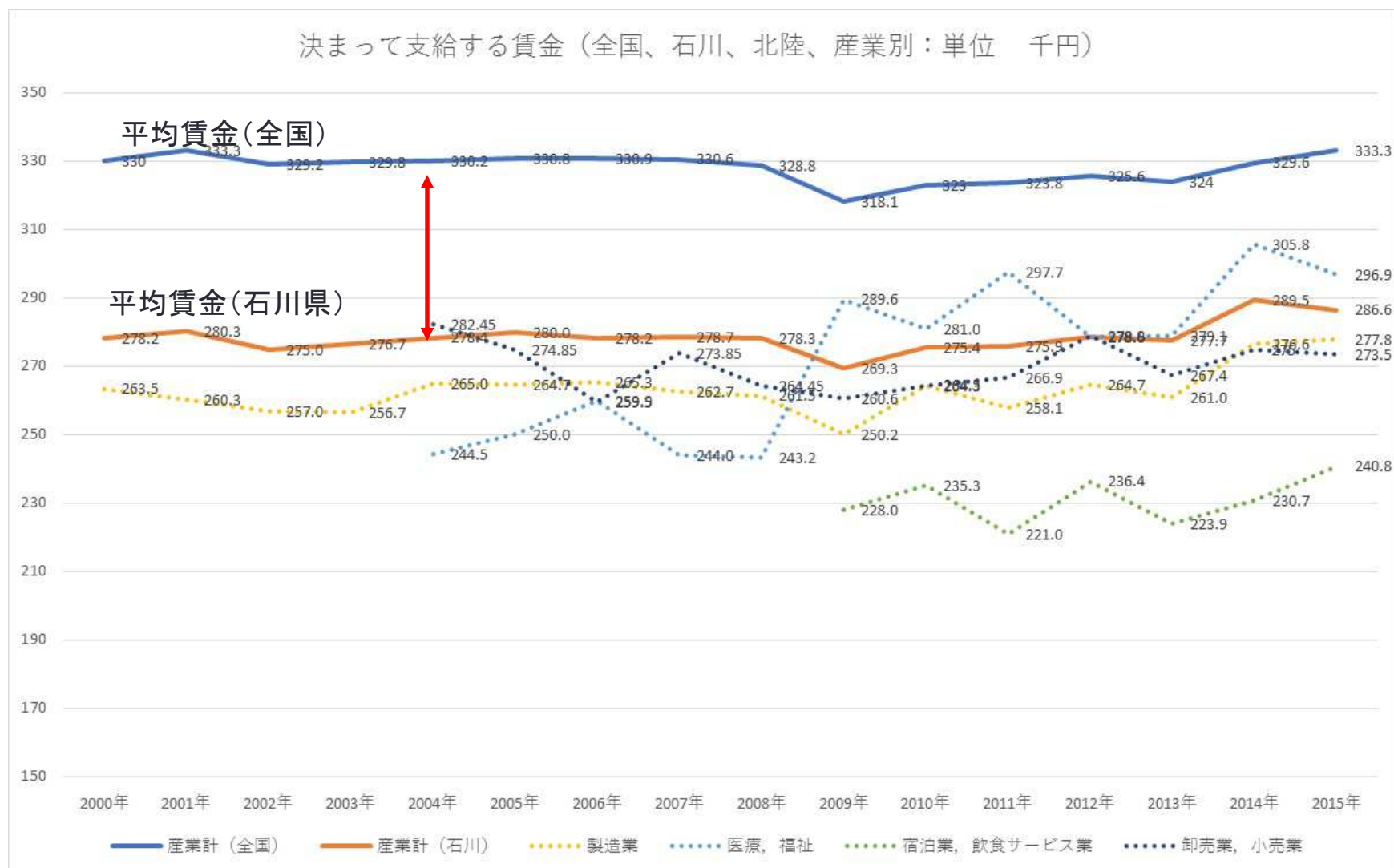


資料:石川労働局「石川の労働市場」

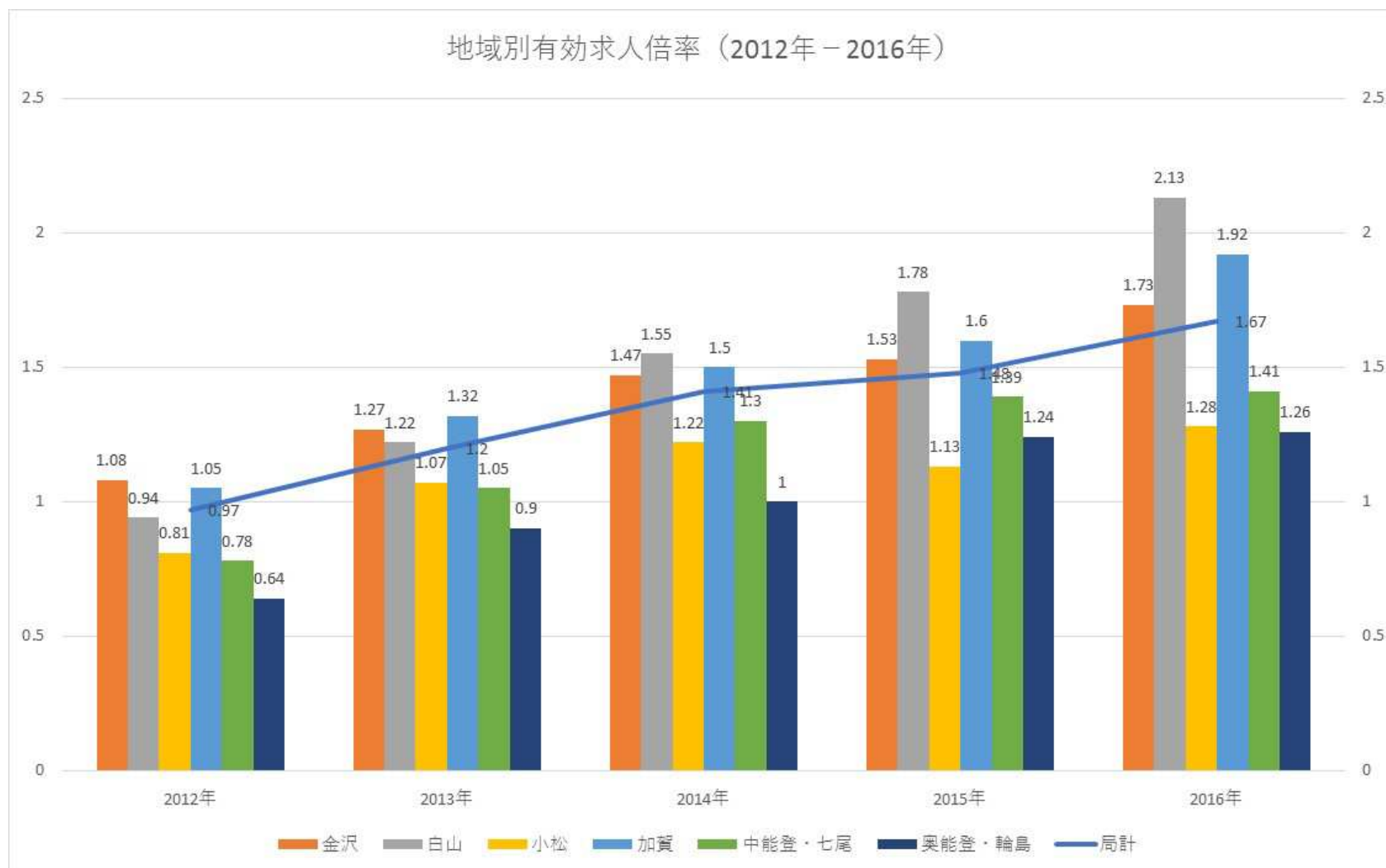


資料:厚生労働省「就業構造基本調査」

石川県の賃金水準(全国・石川)



県内ハローワーク管内別 地域別労働需要の推移



分析から見えてくる論点

- (1) 就業者数は8万1千人が減少している。就業構造は、全国比よりも製造業を含む第二次産業の構成割合が高い。
- (2) 有効求人倍率は全国平均よりも高く、失業率は全国平均よりも約1%低い。新幹線開業年の四半期は新規求人倍率が有意に増加しており、企業の期待が高い事がわかる。しかし、その後の求人の伸びは全国平均並に推移している。石川県
- (3) 有効求職者数と有効求人数を職種別に見ると、事務的職業では有効求職者数が有効求人数を大きく上回る一方で、サービスの職業及び販売の職業、専門的・技術的職業では有効求職者数が有効求人数を大きく下回っている。これらの職業では、非正規雇用の従業者数が増加している。
- (4) 石川県の決まって支給する賃金(常用:年間)は全国平均よりも50万~60万円低い。雇用のミスマッチが起きているサービス業や、販売の賃金は石川県内平均よりも低い。非正規雇用が拡大している卸小売業では、求人ミスマッチの拡大状況でも、賃金が低下している。医療・介護は、全国平均と同じ賃金変化の形状をしており、労働市場よりも介護保険等の制度変化の影響を強く受けて、賃金に変化していることが分かる。
- (5) ハローワーク管内別の求人倍率をみると、県全域で求人倍率が上がっていることがわかる。特に、2012年から2015年の間、白山、加賀で県内平均よりも高い求人倍率で推移した。一方、小松、能登は全期を通じて県内平均以下であった。